



メンズメイクにおける阻害要因及び対策の検討



大分県立日田高校 SciTicS_チームごきげんよう 藤原輝星 吉富桜々 江藤郁奈 指導教員 伊藤大貴

概要

本研究の目的は、「メンズメイクの受容性」を高めるために、その阻害要因を統計的な視点から検討することである。高校生を対象にアンケート調査を行った結果、メンズメイクの受容性は、「肯定的態度」「文化的多様性認識」「社会的スティグマ認識」で構成されることを明らかにし、メンズメイクを阻害する要因として、「男性の役割の認識の固定概念」が大きく、性別・学年・考え方も影響していることが明らかになった。調査・分析を通して、定期的な研修や啓発による普及が必要である可能性が示唆された。

I 背景

- ①メンズメイクの需要が変化していく中、国内のメンズメイク肯定群は4割を下回っている⁽¹⁾
- ②メイクは自信向上や自己表現の手段として有効である⁽²⁾

メンズメイクの受容性を調査し、
阻害要因を検討する必要があるのでは？

II 研究方法

メンズメイクに関する意識と男性役割意識についての調査

目的：メンズメイクのイメージと関連要素の検討
調査期間：2025年10月9日～10月20日
調査対象：O県立O高校 生徒約270名
調査内容：メンズメイクに対する受容性に関する30項目
伝統的な男性役割態度尺度から引用した項目⁽³⁾
フェース項目及び自由記述
分析手法：因子分析、平均値の差の検定、重回帰分析、TT

III 因子分析 結果

30項目より以下の3因子11項目が抽出された

表1 探索的因子分析の結果（最尤法、プロマックス回転）

質問項目（メンズメイクに対する受容性尺度）	Factor1	Factor2	Factor3
I 肯定的態度（$\alpha=.828$）			
メイクをすることは、自分を表現するための重要な手段だと感じる。	.935		
メンズメイクは、内面的な自信を高める手段として利用できると思う。	.710		
メイクをすることで、自分の外見に対する満足感が高まる。	.570		
メンズメイクが社会で広く受け入れられるべきだと思う。	.582		
II 文化的多様性認識（$\alpha=.785$）			
メンズメイクに対する考え方は、世代ごとに異なると感じる。	.890		
メンズメイクは、特に都市部では受け入れられやすいと思う。	.899		
メンズメイクに対する価値観は、地域や国によって大きく異なると感じる。	.535		
自分の国や文化において、メンズメイクが広まることには賛否があると思う。	.480		
III 社会的スティグマ認識（$\alpha=.730$）			
メイクをする男性は、職場や学校で奇異に見られることがあると感じる。	.757		
男性がメイクをすることに対して、ネガティブな反応が多いと感じる。	.890		
周囲の人がメイクをする男性に対して偏見を持つことが多いと感じる。	.819		
X ² , df, p = 39.22, 25, .035			
因子間相関			
Cronbach's alpha = .982			
RMSEA = .050			
AIC = 100.308			
BIC = 205.223			
	Factor1	Factor2	Factor3
	1.000	.635	.136
		1.000	.251
			1.000

自己表現、自信向上、満足感、社会的受容といった、メンズメイクに対する個人的な価値と肯定的な態度

メンズメイクに対する態度が、世代・地域・文化によって異なるという社会的多様性への認識

メンズメイクに対する社会的偏見やネガティブな反応の存在を認識する程度

メンズメイクに対する受容性尺度の構造を把握

表2 確認的因子分析の結果（最尤法）

質問項目（伝統的な男性役割態度尺度）	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4
I 社会的地位の高さ（$\alpha=.857$）				
仕事で成功することは、男性の人生における中心的な目標だ	.917			
男性は社会的に成功を修めることが重要である	.850			
経済的な地位が男性の価値を決める	.777			
仕事に就かない男性など、あり得ない	.803			
II 精神的・肉体的な強さ（$\alpha=.845$）				
男性は痛みを感じても、それを人に見せてはいけいない	.874			
男性は、公の場で泣いてはいけいない	.873			
重い荷物は、男性が持たなければならない	.899			
男性の身体は、たくましくあるべきだ	.859			
III 作動性の高さ（$\alpha=.921$）				
男性は、強いリーダーシップを発揮しなければならない	.897			
男性は、冷静に物事を判断しなければならない	.871			
男性は、他者から頼りにされる存在でなければならない	.861			
男性は、他者に対して自分の意見をきちんと主張しなければならない	.821			
IV 女性的言動の回避（$\alpha=.855$）				
男性が女言葉を使うのは、やめたほうがよい	.841			
男性が、女性がよく身につけるアクセサリーをつけてはいけない	.829			
男性が、他の男性に親密な感情を示してはいけない	.788			
男性、他の男性の身体にやたらにさわるのは、気持ち悪い	.881			
因子間相関				
X ² , df, p = 436.22, 98, .000				
Cronbach's alpha = .890				
RMSEA = .119				
AIC = 100.308				
BIC = 205.223				
	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4
	1.000	.583	.676	.501
		1.000	.845	.883
			1.000	.801
				1.000

既存の尺度の信頼性を確認

III 関連項目の検討結果

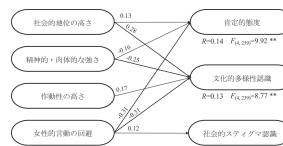


図1 重回帰分析の結果
男性役割 → メンズメイク

表3 t検定の結果（性別）

尺度	因子	男性	女性	df	t	p	sign	効果量(d)
メンズメイク F1 肯定的態度、因子得点	M	3.83	3.79	447	0.66	.512	n.s.	.130
	SD	3.84	3.78	430	0.66	.512	n.s.	.065
F2 文化的多様性認識、因子得点	M	3.14	3.87	324	8.94	.000	**	.331
	SD	3.09	3.11	273	1.09	.279	n.s.	.033
F3 社会的スティグマ認識、因子得点	M	2.56	1.16	3.83	0.76	.450	n.s.	.075
	SD	2.82	1.23	198	0.97	.332	n.s.	.076
F4 女性的言動の回避、因子得点	M	2.29	1.06	3.61	0.77	.450	n.s.	.075
	SD	2.29	1.06	3.61	0.77	.450	n.s.	.075

図1より

- 「肯定的態度」と「文化的多様性認識」については、4つの独立変数（因子）が影響している
- 「社会的スティグマ認識」については、これらの独立変数（因子）では説明できなかった
- 「女性的言動の回避」と「精神的・肉体的な強さ」が高い人ほど、「肯定的態度」「文化的多様性認識」が低い
- 「社会的地位の高さ」は、「肯定的態度」と「文化的多様性認識」の両方を高める

表4 分散分析の結果（学年）

尺度	因子	1年	2年	3年	df	F	p	sign	効果量(η^2)
メンズメイク F1 肯定的態度、因子得点	M	4.18	3.60	4.04	0.88	4.00	0.76	n.s.	.000
	SD	4.12	3.74	4.09	0.76	4.09	0.76	n.s.	.001
F2 文化的多様性認識、因子得点	M	3.02	3.98	3.33	0.88	3.18	0.04	n.s.	.001
	SD	2.51	1.02	2.85	1.07	3.11	1.13	n.s.	.003
F3 社会的スティグマ認識、因子得点	M	1.64	0.71	2.18	1.04	2.39	1.07	n.s.	.007
	SD	1.79	0.88	2.29	1.13	2.68	1.21	n.s.	.008
F4 女性的言動の回避、因子得点	M	1.52	0.71	1.93	0.93	2.08	1.06	n.s.	.004
	SD	1.52	0.71	1.93	0.93	2.08	1.06	n.s.	.004

表3より

- メンズメイクに対する受容性は女性の方が有意に高い（F3を除く）
- 伝統的な男性役割態度は男性の方が有意に高い

性別による認識の違いを確認

表4より

- 伝統的な男性役割態度は学年によって有意な差がある

学年による「男性の捉え方」の違いを確認

IV テキストマイニング

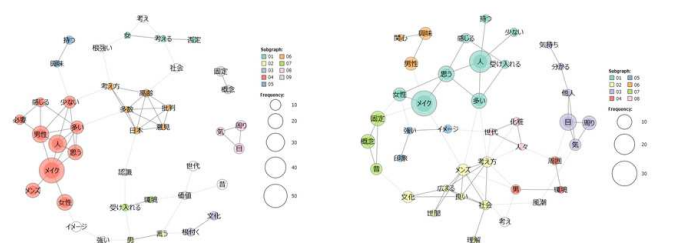


図2 メンズメイクが普及しない理由 左：文化的多様性高群 右：文化的多様性低群

メンズメイクが普及しない理由について

文化的多様性高群は、「社会構造・文化・特定層からの批判」であると考えている（客観的）
文化的多様性低群は、「周囲の目線・世間の空気・イメージ」であると考えている（主観的）

V まとめ

本研究により、メンズメイクを阻害する要因として、

- 「男性の役割の認識の固定概念」が関係している
 - 性別による考え方の差がある（女性の方が寛容）
 - 「学年（年齢）」によって考え方が古い/古くなる
 - 主観的/客観的な考え方によって、原因の認識が異なる
- こと等が明らかになった

メンズメイクの普及や多様性の推進に向けて

- 年齢上位層への研修や啓発活動の定期的な実施
 - メンズメイク受容に向けたコンテンツの作成
- が必要であると考えられる

引用参考文献

1. 全国の15歳～69歳の男女998人に聞いた「メンズメイクの浸透と理解」, PR TIMES, 2025年10月29日閲覧
URL: <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000217.000003149.html>
2. メンズメイクで自己表現 きれいな顔になりたい20代の美容男子, Kao, 2025年10月29日閲覧
URL: <https://www.kao.co.jp/life/life/report-31/>
3. 斎藤寛 (2017) 伝統的な男性役割態度の形成と作威と権威性・妥当性の検証, 心理学研究, 88(5), 488-498
4. 清水裕士 (2016) フリーの統計分析ソフトHAD: 機能の紹介と統計学習・教育, 研究実践における利用方法の提案, メディア・情報・コミュニケーション研究, 1, 59-73.
5. easyStat, DR-Lab, 2025年10月29日閲覧
URL: <https://easystat-4-education.streamlit.app/>